

恐れないうで語り続けよ

2023年2月12日

使徒の働き 18章1～11節

序：アテネ ⇒ コリント

もともとパウロがギリシャ南部（アカイア地方）の伝道の拠点にと目論んでいた
滞在して伝道する必要があるか、ないか
そもそも、神のみこころ、神の導きか否か

I. コリント

- アテネからは西に約70km
- B.C.146 ローマにより破壊、100年間放置
- B.C.44 ローマ皇帝ジュリアス・シーザーにより再建、植民都市として復興
- 繁栄した重要な商業都市、東西交易の中継地（二つの港）
- 性的罪が蔓延、風紀の乱れた街として知られていた ⇒ 教会にも影響、同体質「コリント風」

II. 自給伝道

- 生計を立てるため、天幕造り（Tentmaker）
- 同業者との出会い（同業者 ⇒ 同労者）
アキラ（夫）とプリスキラ（妻）
プリスカ
ポントス出身 ⇒ ローマ ⇒ コリント ⇒ エペソ ⇒ ローマ
↓
クラウディウス帝のユダヤ人追放令
同居して、共働（生活を共にした）、この夫婦の信仰の確立・成長に資す
- 安息日には、ユダヤ人の会堂で宣教

III. 宣教に専念

- 同労者（シラスとテモテ）が合流
マケドニアの教会からの支援献金 + シラスとテモテが働いて生活費に充当

- まず、ユダヤ人に 厳かに証言「イエス＝キリスト（メシア）」
旧約の成就

ユダヤ人たちの反抗・悪口雑言

ユダヤ人の会堂に出入り・使用ができなくなった
これ以上、ユダヤ人への宣教の責務は負わない（十分にやった）⇒ 解放
最後通告
ユダヤ人が滅びるとしても、彼ら自身の責任
神にもパウロにも責任転嫁できない
今後は異邦人への伝道に

- 会堂を去った後
神を敬うティティオ・ユストの家に移り（会堂の隣）伝道継続
パウロに付き従った人々：会堂司クリスポと家族の回心
多くのコリント人が信仰に入る ⇒ バプテスマ
パウロがコリントで授洗したのはクリスポとガイオだけ コリント I 1:14

IV. 主の幻

- コリントでの宣教活動は進展
- パウロは困難（疲労・恐れ＝反対者からの身の危険を覚えるような攻撃）の中
cf. 預言者エリヤ 班I 18~19章 大成功の後の虚脱感・疲労こんぱい
- 主の激励：恐れていないで
語り続けよ
黙ってはいけない
- 主の保証：主がともにいてくださる（目には見えなくても）
あなたに危害を加える者はいない（攻撃はあるが）
この町（コリント）には神の民が大勢いる（人間的尺度ではNO）
選び＋恵み＋信仰＝救い

V. パウロの決断

- 腰を据えて（どっしりと構え、急がず、落ち着いて）
- 1年半（18ヶ月）の間、神のことばを語り、教え続けた（十分時間を割いた）
- コリント教会開始

VI. 結び

- 神は不信者の支配者をも、ご計画を実現するために用いられる
クラウディオ帝のユダヤ人追放令 cf. アウグストゥス帝の住民登録の勅令
 - 神は使命とそれを果たす手段も備えてくださる（自給生活のための職業）
（使命に専念できる環境）
 - ふさわしい同労者との共働（出会い、交わり、献身） ∵ 神による人選
プリスキラ&アキラ夫婦はパウロの終生の主にある信仰の仲間
 - 方針・やり方は変更すべき時には変更する
 - 決別すべき事・人とは決別する時が来たら実行する
- } 柔軟に、断固として
- 人からの励ましや慰め以上に、主に励ましや慰めや力をいただかねばならない
主にある働きを生来の肉の力によっては、決して達成できない
 - 与えられた使命を果たすには、時間と決断が必要